

北海道産業人材育成連携会議

## 「食品工業人材育成ワーキンググループ」の検討状況について

## 現状と課題

- 食品工業は、本道における重要な産業の一つであるが、原材料、生鮮食品としての供給源的な性格が強く、低次加工にとどまっており、地域資源を活用した加工食品づくりが求められている。また、有効求人倍率が高く、慢性的な人手不足の状況。
- 生産管理、品質管理技術の向上や製品開発など技術力の向上といった付加価値の向上が課題。また人手不足の解消も重要。

## 検討テーマ

- ◎経営者の意識改革
  - ・後継者問題に対応した経営者セミナーの開催
- ◎技術系人材の育成
  - ・高付加価値商品の開発に向けた技術系人材の育成（関係機関が連携した共同事業の実施）
- ◎次代を支える担い手の育成・確保
  - ・労働力確保に向けた産業理解の促進



H 2 1 における  
検討結果を受けて

- WG 検討結果→さまざまなツールを活用して取組を推進
- ネットワークの関係機関との連携
  - 厚生労働省の緊急雇用創出推進事業交付金事業
  - 道の政策検討・予算事業

## H 2 2 取組内容

- 経営者の意識改革
  - ・食の安全・安心セミナーの開催（道）
- 技術系人材の育成
  - ・生産管理技術導入トレーニング・ゼミの開催（道）
  - ・食品技術者養成講座の開催（道）
  - ・技術講習会、研修生の受入れ（道）
- 次代を支える担い手の育成・確保
  - ・ものづくり産業理解促進事業の実施《緊急雇用創出推進事業（道：国委託事業）》

## H 2 2 検討の方向性

- 【継続検討項目】
- 後継者問題に対応した経営者セミナーの開催
  - 高付加価値商品の開発に向けた技術系人材の育成（関係機関が連携した共同事業の実施）
  - 労働力確保に向けた産業理解の促進
- 【新規検討項目】
- その他新規項目の洗出し

## H 2 2 検討の経過

- ・各企業に合った研修プログラムとなると作成には時間がかかる。
- ・地域において人材育成について聞いてみると、スーパーなどの末端向けのマーケティングに力をいれたいが、思い通りにいっていないとのこと。
- ・直接消費者に販売していくノウハウを知り、その割合を増やしていきたいと考えており、流通の専門家に実践的なことを学ぶ機会があれば良い。
- ・地域の企業においては、販路が見つけれない、販売力が弱く売れない、などから何とか支援してほしいとの相談が多い。
- ・バイヤーに売り込み、いかに取り扱ってもらえるようにするかという、製造業者として自らここまで実施しなければならないということを学べる塾などが必要。
- ・マーケティングの研修といっても、製造業という広い範囲で集めて実施となると総体的な内容のものになってしまう。
- ・流通業者との取引の仕方などを学ぶことによって、実際の取引につながるだけでなく、人材育成にも寄与できる。
- ・関連事業のPRで企業訪問したところ、H A C C P をとりたいという声が多かった。

## WGメンバー

北海道冷凍食品協会、北海道水産物加工協同組合連合会、日本政策投資銀行北海道支店、北海道商工会連合会、北海道経済産業局、北海道労働局、中小企業基盤整備機構、雇用・能力開発機構、北海道中小企業総合支援センター、北海道立総合研究機構産業技術研究本部食品加工研究センター、北海道（人材育成課・産業振興課・雇用労政課）

## 開催実績

H 2 1 年度		
第 1 回WG	H 2 1.	9. 2 9
第 2 回WG	H 2 1.	1 2. 1 6
第 3 回WG	H 2 2.	2. 8
H 2 2 年度		
第 1 回WG	H 2 2.	8. 6